

令和3年度 第7号 (201号)

立ろうだより



令和3年 10月4日 発行
東京都立立川ろう学校
校長 村野 一臣
〒190-0003
東京都立川市栄町1-15-7
電話042-523-1358
ファクシミリ042-523-6421



Tシャツプロジェクト



校長 ^{むらの} 村野 ^{かずおみ} 一臣

2学期が始まり、小学部の夏の作品を玄関に掲示しました。どの作品もこの夏に一生懸命に取り組んだ様子が伝わってきます。御家庭では、夏休みの宿題の中でお子様と悩みながらいろいろと相談したことと思います。興味や関心のあるものをじっくり取り組んでいくことは、やはりこれからの学習にとっても大切です。大学生への調査では、高校時代に「興味をもったことに自主的に学習した」生徒は、大学での学習時間が長い傾向にあるそうです。

さて、今年度は「立川ろう学校最後の年」として、幼児・児童・生徒と様々な活動を進めています。その一つが「Tシャツプロジェクト」です。ライフデザイン系の専攻科生が中心になって全校にデザインを募集して、作成を進めています。この度、デザインが決まり、全校に発表をしました。集まったデザインで多かった言葉は、「ありがとう」「Thank you」といった、感謝を表す言葉でした。最終的には、立川ろう学校に感謝を込めて「ありがとう」の文字を入れることになりました。文字は、それぞれの学部の代表や校長、栄養士が担当しました。また、ほのぼのとした立川ろう学校での生活が感じられる絵が詰め込まれています。Tシャツは、紺地に学部毎に色を変えたデザインとなります。高等部の職業コース生徒が、様々なことに積極的に取り組んでくれることが嬉しいです。総合学園の良さを改めて感じます。



話は急に変わりますが、「ごふじょう」という言葉についてお話します。私が小学校2年生に担任が変わりました。担任の先生は、少し年配の上品な女性の先生でした。この先生は、「ごふじょう」という難しいことばを使っていたのを思い出します。意味も分からなかったのですが、朝は「ごふじょう、すませましたか?」、休み時間になると「ごふじょういってきてください」等と言われるのです。小学校2年生の誰からも、「ごふじょう」って何ですかと問うた同級生はいませんでした。しかし、その問いかけにきちんとした行動がとれていたのです。もうお分かりですね。「ご不浄」「憚(はばかり)」「厠(かわや)」「閑所」「山」と日本での「トイレ」の呼び名です。「ご不浄」は、便類は不浄なものと言われることから、不浄・不浄場とされ、これに丁寧語として「ご」がついたものです。特に女性が使う言葉であったようです。そうすると女性の担任の先生が「ご不浄」を使うのは、ごく自然なことですね。(当時は、昭和43年頃です)分からない言葉でもその場の雰囲気や使うタイミングで分かることがあります。身振りや手話も同様かと思います。言葉を増やしていくには、一般に「耳学問」(ろう学校では目学問?)として、いろいろな話を聞く、見るのが大切だと言われます。言葉を結び付けていくことを丁寧にしていきたいです。幼稚部の子が、「不織布」や「黙食」を理解できるのも現在の生活の鏡と言えます。

